

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490100035
法人名	社会福祉法人 自立共生会
事業所名	グループホーム くわなの宿
所在地 (電話番号)	桑名市新町73番地 (電話) 0594-23-1157
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 12 日(月)

【情報提供票より】 (H19年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算	4.46人

(2)建物概要

建物構造	木造 一部鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~60,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無 10万円・退去時修繕後返却	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ウェルネス医療クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

神社・仏閣を数多く有する懐かしい町並みが続いている、桑名市の旧市街地に位置している。利用者にとって住みなれた、安心できる住環境である。1階がデイサービス・2階がグループホームの建物は施設長の生家である大きな商家を改築されたもので、旧東海道に面し、地域の人々が訪問し易い工夫や雰囲気が見られる。法人の理念『お年寄りの底力を社会に生かす』を実践し、併設の児童クラブや地域支援の子供達との交流も利用者の喜びになっている。昼食時、かまどで炊くお米の水加減を教えていた利用者一人ひとりのペースを見守る職員との会話は楽しく信頼関係が感じられた。利用者・職員ともに仲が良く、日常的に近隣への散歩や馴染みの店への買い物など楽しみごとの多い地域密着型を実践している明るい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人の運営するグループホームひかりの里での外部評価の経験を活かして、施設長はじめ管理者・全職員ともに調査の意義・目的をよく理解しており、自己評価にも取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>桑名市の方針で3ヶ月に1回開催しており、現段階では2回開催し、法人理念や『くわなの宿』としての取り組みなどを報告している。運営推進会議は外部の人と事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。これからも定期的に開催し、サービスに関しても積極的に意見を出してもらい、運営に関しても協力していただくような取り組みが望まれる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月発行の「くわなの宿便り」に利用者一人ひとりの様子を担当者より報告し、家族からも意見を出しやすい工夫をしている。また家族の訪問時に不平・不満を自由にいつてもらえるような雰囲気作りに留意している。それらから出た意見などは運営に反映させている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設長の生まれ育った地域である。馴染みの方々や協力者も多く、日常生活における地域との連携は常にとりやすく、協力体制も整っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「①最後までその人らしさを発見できる環境を作る。②出来るだけ自立して生活する。③子供からお年寄りまで障害にかかわらず協力し合って生きる。④すべての人を社会資源として活用することを心がける。⑤人々の幸福に貢献する。」が法人の理念である。それらをふまえて「地域との関係を重視しながらお年寄りの底力を活かし、一人ひとりが社会貢献できるように支援する。」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のケアカンファレンス等で管理者と職員の意識統一を図り、『お年寄りの底力をいかす』を日々、念頭におき地域密着型サービスの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は施設長の生家を改築したものである。町内に馴染みの方々も多く、神社仏閣の掃除や地域行事に利用者と参加している。自治会に加入し、9月からは班長会にも出席して地域との付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価研修などに積極的に参加し、自己評価・外部評価を実施する意義を理解している。	○	今回が初めての外部評価である。評価を活用し職員全員で具体的な改善に取り組んでいただくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設してまだ8ヶ月目の事業所であるが、桑名市の方針で3ヶ月に1回開催している。運営推進会議には家族、利用者、民生委員、元民生委員、桑名市介護高齢福祉課、東部地域包括支援センター職員、施設長、管理者が参加し会議を開催している。議事録もきちんと作成している。	○	運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容を報告したり、具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。これからも定期的に関わり、事業所のサービスに関して積極的な意見を出してもらい、運営に関しても協力していただくような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	桑名市の担当者とは運営推進会議以外にも母体法人ウエルネスグループとして、自立共生会家族会主催の介護予防・健康教室の開催などを相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、『桑名の宿だより』を作成し、利用者の暮らしぶりや行事予定などを家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱設置やアンケートを実施して家族にはどんなことでも言ってもらおう雰囲気作りをし、出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、職員の交代がある場合は利用者へのダメージが極力少なくなるような人選をし、馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設け、定期的に勉強会を開催している。職員のキャリアや能力に応じた研修参加を促し、研修報告を法人グループ内勉強会で発表をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が三重県グループホーム連絡協議会の書記をしている。ネットワーク作りや同業者との交流の機会をもち、活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や事業所見学で馴染みの関係を築き、体験利用やデイサービス利用など家族とも相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、日々の生活の中で教えてもらいながら、支えあう関係を築いている。また利用者自身が意見を出しやすい場面づくりの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添い、意志の疎通を図りながら、日々の表情や行動から一人ひとりの思いや意向の把握につとめている。また利用者一人ひとりの底力を念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	法人が創意工夫した個人記録表がある。その個人記録表に必要な関係者が記載した利用者一人ひとりの詳しい日々の情報を反映する利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成前に、家族に便りを送り、意見を出してもらっている。本人や往診の医師からの情報を元に必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や意見に耳を傾け、家族や本人の状況に応じて事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回主治医(法人の理事長)、月に2回内科医の往診がある。歯科や眼科に関しては必要時、利用者一人ひとりのかかりつけ医への受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算同意書が作成されていて、入居時に提示して事業所の方針を説明している。出来ること出来ないことを話し合い、母体医療機関の協力を得て職員の協力体制も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら、職員は言葉かけや対応を行っている。日報などはイニシャルを使用して人物の特定が出来にくいようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意向やペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食・昼食・夕食・おやつを作る段階から利用者と職員と一緒に準備や片付けを行い、やりがいや生きがいを持ってもらえるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず利用者の意思を確認し、時間などを決めている。入浴は毎日出来る。入浴剤や柚子湯・みかん湯・菖蒲湯などで季節感を楽しむ工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式のシートを使用し、一人ひとりの生活歴や馴染みのものを把握し、日々の暮らしの中で楽しみや役割を見つけて支援している。(竈での炊事や野菜づくりなどの得意な方は職員を生徒にして経験を発揮する場面を作っている。)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホーム桑名の宿の基本方針である「起きて・歩いてもらう」を実践し日常的にスーパー、公園やお寺に出掛けている。散歩時に防犯パトロールも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長・管理者・全ての職員が日中鍵をかけることの弊害は理解している。(利用者の安全を確保されない場合のみ記録を残して施錠をすることもある。)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の災害対策訓練は行われている。次回の運営推進会議で地域との協力体制について話し合う予定である。	○	非常時(火災や地震・浸水など)に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難できるように消防署や地域の方々の協力を得て、避難路の確保など夜間の想定も含めた避難訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がメニューを管理し、栄養価も記載している。食事の量・水分摂取量は利用者一人ひとりの個人記録のタイムスケジュールに記入し、摂取の傾向観察に役立て支援している。(夜間はベッドサイドに水分補給できるように用意している。)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには布団を干すスペースや、かまどなどが置かれ、懐かしい生活感を採り入れている。共用空間の室温や光・テレビの音量・職員の声などは適切で居心地良く過ごせる配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族や利用者と相談しながら、落ち着いて居心地良く過ごせるような工夫をしている。(畳の部屋もある。)		